

調査速報

# 外食需要動向(2023年3月)

## パブ・居酒屋業態の売上高の伸びが、外食産業売上高を押し上げた

主任研究員  
佐橋 官  
045-225-2375  
sahashi@yokohama-ri.co.jp

要約

- 3月の家計の実質外食支出金額は、季調済前月比では2月を下回ったが、高い水準を維持した。
- 3月の外食産業売上高は、客数の戻りと客単価の上昇によって、全体としてコロナ禍前並みの水準が続いた。
- パブ・居酒屋業態でも、1店舗当たりの売上高はコロナ禍前の8割の水準まで戻った。ただし同時に、消費者行動の変化を見極め、それにどのように対応するかが問われる局面に入ったとみる。

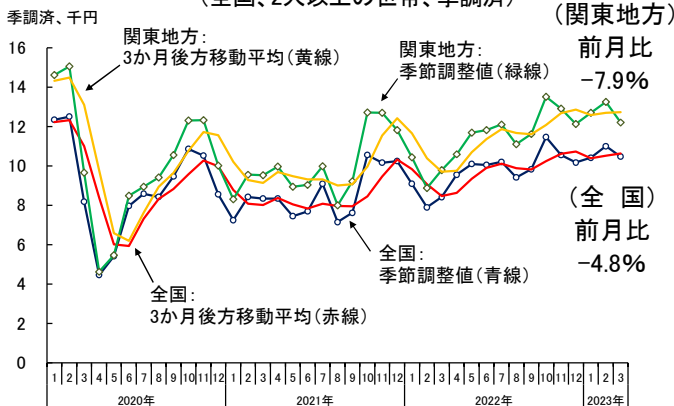
### 1. 家計の実質外食支出金額は高い水準を維持

総務省「家計調査」に基づく2023年3月の1世帯あたり実質外食支出金額(季節調整済)は、全国が前月比4.8%減(前年同月比24.0%増)、関東地方が前月比7.9%減(前年同月比24.6%増)となった(図表1)。全国、関東地方とも、前月(2月)の水準を下回ったものの、高い水準を維持した。旅行やレジャーに加えて、対面形式でのイベントや式典等の開催も増加していることから、5月の新型コロナウイルス感染症の「5類」への分類変更を前に、既に外食需要の回復は進んでいる。

### 2. 外食産業の客数が増加傾向へ

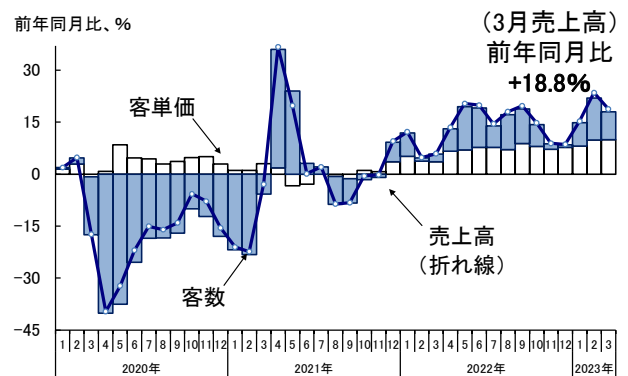
また、2023年3月の外食産業売上高は前年同月比18.8%増となった(図表2)。客数の増加(同8.0%増)と客単価の上昇(同10.0%増)が、ともに売上高の伸びを押し上げる要因となっている。年初来の行動制限の撤廃によって飲食店への客足が戻ってきていることに加えて、メニュー価格の値上げが進んでいることが考えられる。また、この3月の外食産業売上高の水準は、コロナ禍前の2019年3月と比較しても1.5%増となった。

図表1 実質外食支出金額は高い水準を維持  
(全国、2人以上の世帯、季調済)



注1:総務省「家計調査」の用途分類「一般外食」。  
注2:実質化と季節調整は浜銀総合研究所が実施。  
出所:総務省「家計調査」より浜銀総研作成

図表2 外食産業は増収傾向が続く  
(全国、全店、前年同月比)



注1:全店とは、既存店と新規店の合計。  
注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

### 3. 少人数の宴会需要は回復傾向だが、依然として大規模宴会や深夜の飲酒需要は低調

2023年3月の売上高を業態別にみると、コロナ禍下での大きな下振れからの回復が遅れていたパブ・居酒屋業態の売上高が前年同月比89.4%増となり、外食産業全体の売上高を押し上げた(図表3)。ただし、増えているのは比較的少人数の宴会需要とみられ、職場などで実施される大規模な宴会や、二次会、三次会といった深夜の飲酒需要の戻りは鈍い。行動制限がなくなる一方で、コロナ禍下で進行した消費者行動の変化が表面化しはじめていとみることできよう。

その結果、コロナ禍前の2019年3月の水準と比較すると、2023年3月の同業態の売上高は依然として6割強にとどまる(図表4)。ちなみに、同業態の店舗数はコロナ禍下で大きく減少している(2019年3月2,395店→2023年3月1,854店)。この点を考慮して同業態の1店舗あたり売上高(我々が実際に目にする、パブ・居酒屋店舗の客の入り込み具合に近い)を単純計算すると、2023年3月時点でコロナ禍前比8割程度となる。

5月8日からは新型コロナウイルス感染症の分類が「5類」となった。この先も順調に客足が戻り、パブ・居酒屋業態の売上高の回復が進むことが期待されるが、前述のような消費者行動の変化の可能性を踏まえると、1店舗あたり売上高の残りの約2割、売上高合計の残りの約4割を回復することは容易ではないのかもしれない。パブ居酒屋業態は、消費者行動の変化の行方を見極め、それにどのように対応するかが問われる局面に入ったと認識すべきであろう。

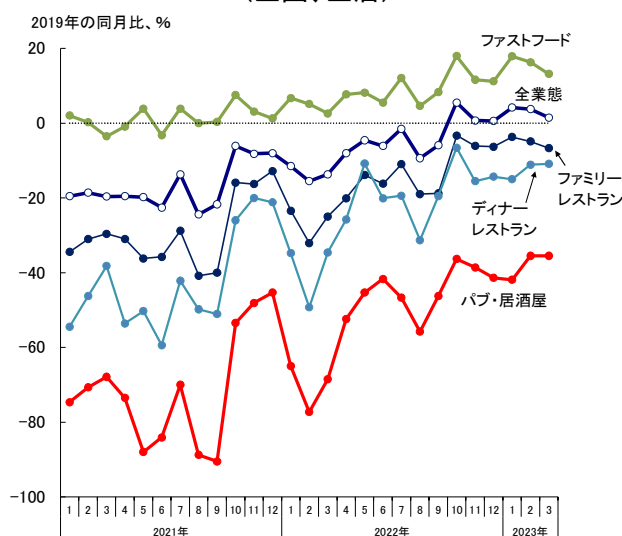
図表3 外食産業売上高(2023年3月、全国、全店)

(前年同月比増減率)

業 態	店舗数	売上高	客数	客単価
<b>全 体</b>	<b>36,579</b>	<b>18.8%</b>	<b>8.0%</b>	<b>10.0%</b>
<b>ファストフード</b>	<b>21,190</b>	<b>10.9%</b>	<b>4.2%</b>	<b>6.4%</b>
洋 風	6,270	8.6%	1.3%	7.2%
和 風	5,051	12.8%	7.5%	4.9%
麺 類	3,165	19.2%	7.8%	10.5%
持ち帰り米飯/回転寿司	4,347	8.4%	2.4%	5.8%
その他	2,357	15.2%	6.2%	8.5%
<b>ファミリーレストラン</b>	<b>10,460</b>	<b>26.2%</b>	<b>14.2%</b>	<b>10.5%</b>
洋 風	5,220	24.6%	16.3%	7.1%
和 風	2,500	25.3%	14.8%	9.1%
中 華	1,375	20.4%	5.4%	14.2%
焼き肉	1,365	39.7%	15.1%	21.3%
<b>パブ・居酒屋</b>	<b>1,854</b>	<b>89.4%</b>	<b>66.2%</b>	<b>13.9%</b>
パブ・ビアホール	391	104.5%	74.9%	16.9%
居酒屋	1,463	82.6%	61.5%	13.1%
<b>ディナーレストラン</b>	<b>964</b>	<b>36.2%</b>	<b>25.6%</b>	<b>8.4%</b>
<b>喫茶</b>	<b>1,888</b>	<b>27.5%</b>	<b>12.8%</b>	<b>13.0%</b>
<b>その他</b>	<b>223</b>	<b>21.5%</b>	<b>12.9%</b>	<b>7.6%</b>

注1:全店とは、既存店と新規店の合計。  
 注2:売上高と客単価は名目ベースの税抜き価格による比較。  
 注3:売上高、客数、客単価は店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
 出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

図表4 2019年比でみた業態別売上高の推移(全国、全店)



注1:全店とは、既存店と新規店の合計。  
 注2:名目ベースの税抜き価格による比較。  
 注3:店内飲食だけでなく店外飲食も含む値。  
 出所:一般社団法人日本フードサービス協会「外食産業市場動向調査」より浜銀総研作成

本レポートは、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると判断した情報に基づいて作成したものです。その正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載した内容は、レポート執筆時の情報に基づくものであり、レポート発行後に予告なく変更されることがあります。ご利用の際は、最新の情報をご確認くださいませますようお願いいたします。